



学園独自の付加価値の創出

—第一ステージの質で勝負するため—
—働き方改革を通して—

平成30年6月9日(土)
学校法人安城学園 学園長
寺部 暁



はじめに





私たちの共通目標

◆ 質的目標

- できるだけ早期(4年以内)に「**智性・徳性・身体・感性・行動**」に基づいた**自学・共学システム**(教育システム「**学びの泉**」(仮称))の**基礎を構築**する

◆ 量的目標

- できるだけ早期(4年以内)に**持続可能性の基盤の仕組みを構築**する





私立学校を取り巻く環境（その1）

現代社会の変化





AIの普及・IT社会の高度化

- ◆ AI普及により無くなる仕事・生まれる仕事
- ◆ 対話型の音声認識に対応したアシスタント機能を持つAIスピーカー
- ◆ 大学入試問題を解くAIロボット
- ◆ AI活用で「教えない先生」が登場
1,800億円に膨らむ教育×IT市場
- ◆ ハンコ押すだけの管理職は5年後に消える



© 2018 Google



Copyright © DENSO CORPORATION.



AIの普及・IT社会の高度化

- ◆ RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）による定型業務の自動化
- ◆ キャッシュレス決済・レジレス無人店舗の登場
- ◆ 多種・大量な個人情報データのデータ化
- ◆ 量子コンピューターの登場



Copyright © D-Waveシステム D-Waveシステムウェブサイト

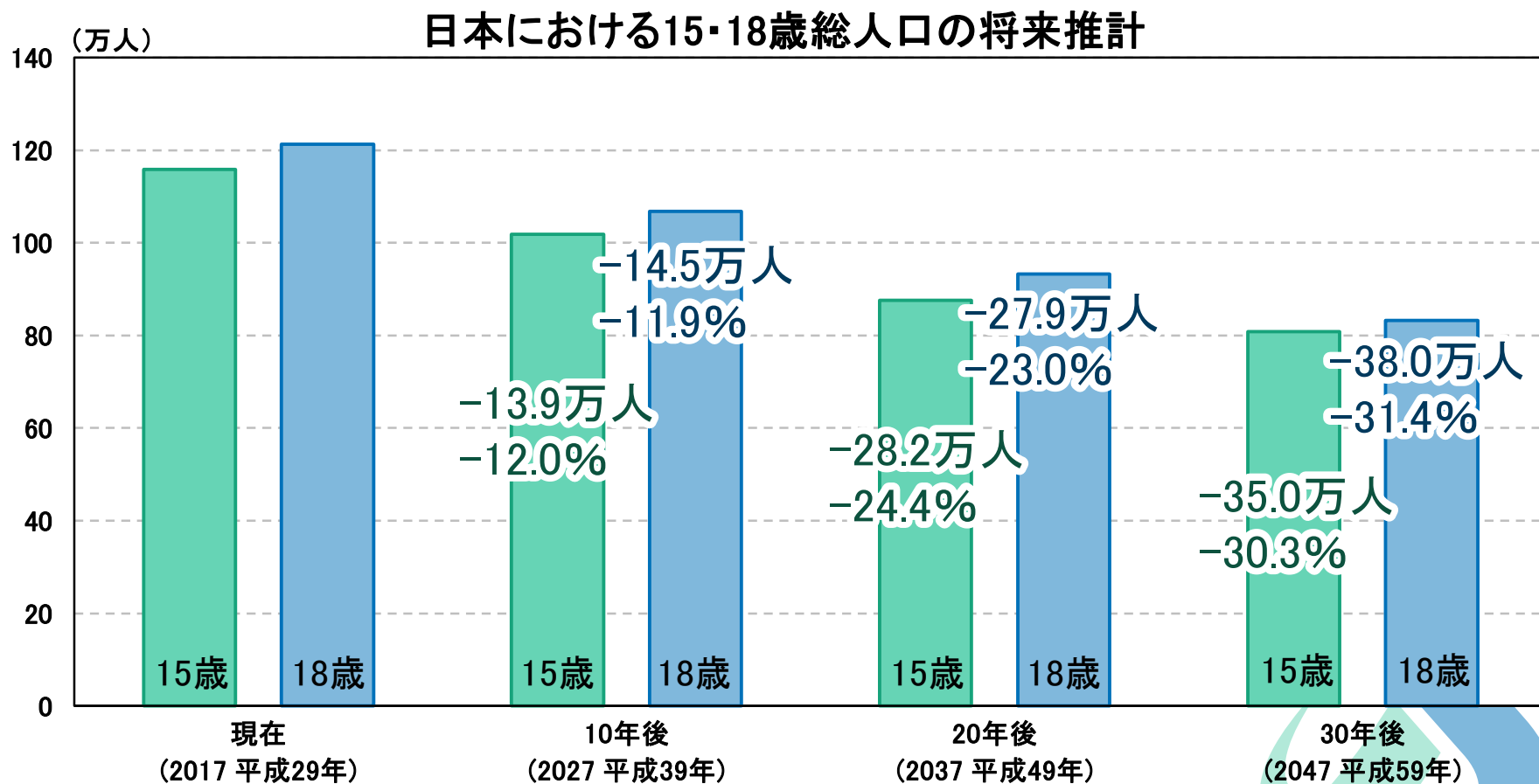


© 1996–2018, Amazon.com, Inc





本格的な少子化社会の到来



※ 平成29年は、総務省統計局『人口推計』における「年齢各歳別総人口(10月1日現在)」より。平成30年以降は、国立社会保障・人口問題研究所発行『日本の将来推計人口(平成29年推計)』における「年齢各歳別人口:出生中位(死亡中位)推計」より



私立学校を取り巻く環境(その2)

教育界の変化





国の教育政策

◆ 内部質の保証について

- 全学的チェック(三つの方針の点検・評価、IR機能、教員評価など)
- カリキュラムマネジメント(履修系統図、アセスメント方針、GPA制度)
- 学生の学び保証(学修時間・行動・成果の把握、授業評価の活用)

◆ 高大接続について

◆ 護送船団方式からの脱却

- 経常費補助金の制度(配分率)変更
 - ・ 定員未充足に対する調整係数、教育の質を評価する指標など

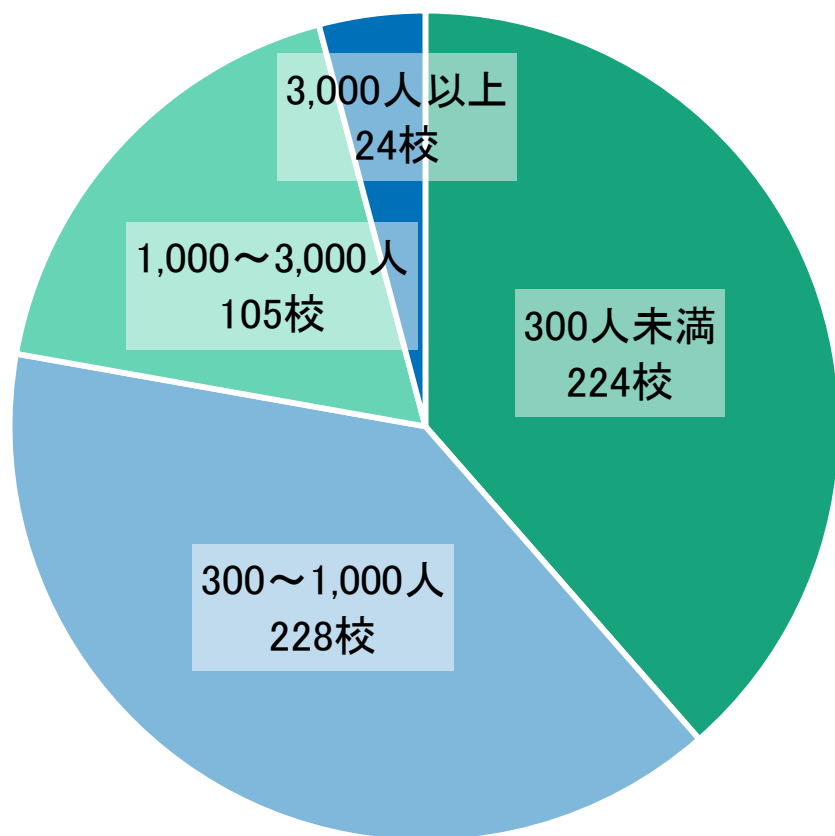
◆ 働き方改革について



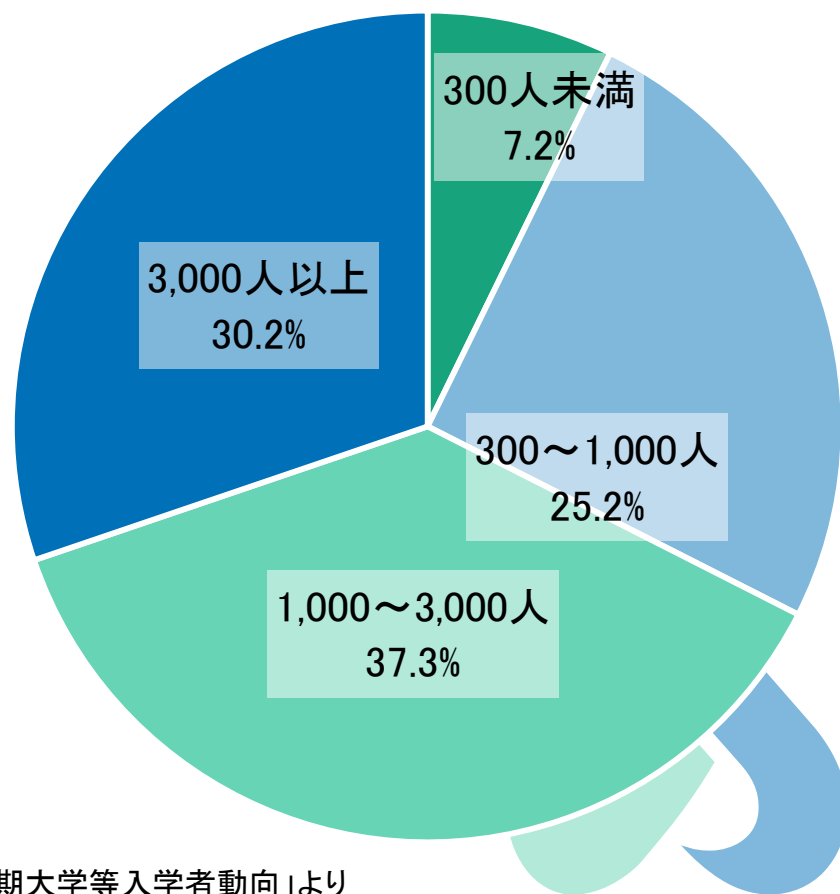


一条校間の競争

◆ 入学定員規模別 私立大学比率



◆ 入学定員規模別 入学者比率



※) 日本私立大学振興・共済事業団発行「平成29年度 私立大学・短期大学等入学者動向」より



一条校間の競争

- ◆ 地方私立大学の公立大学化
- ◆ オンライン大学による海外大学の参入
- ◆ 少子化により入学者の奪い合い
 - 特に、大学・短期大学は顕著！

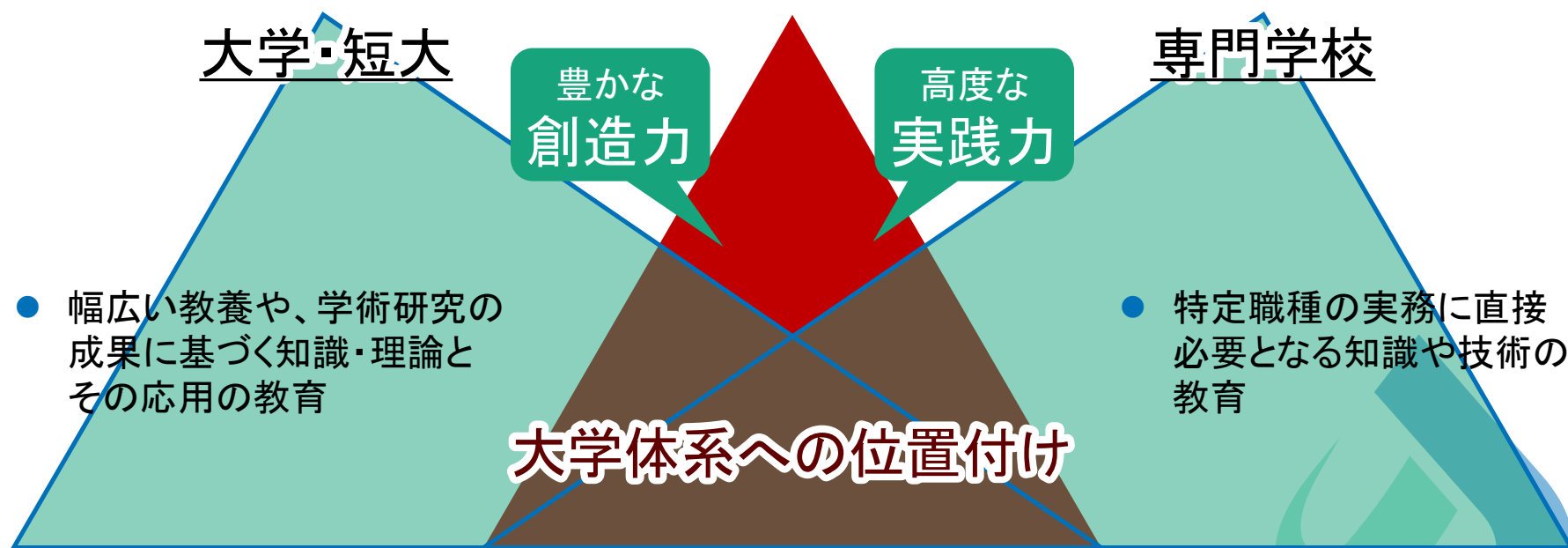




専門学校、専門職大学・短大との競争

◆ 新たな高等教育機関の制度化

専門職大学・専門職短期大学



※) 文部科学省作成「専門職大学・専門職短期大学の制度化」説明資料より



民間の教育産業との競争

◆ Benesse 〈こどもちゃれんじ〉

- 中国・台湾を中心に海外展開。会員数約115万人

◆ KUMON「公文式」

- 50の国と地域で学びを提供

⇒ 教育システムの輸出化



© 2018 Kumon Institute of Education Co.,Ltd.



Copyright © Benesse Corporation.

◆ RECRUIT「スタディサプリ」

- 4万本以上の神授業が見放題！

◆ Z-KAI「最速最短学習コース」

- AI先生による個別指導

⇒ 教育システムの開発力



© Recruit Marketing Partners Co.,Ltd.



Copyright(c) Z-kai Inc.



教育の課題

私立学校を取り巻く環境から





教育の課題(文部科学省)

- ◆生きて働く**知識・技能**の習得
- ◆未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力等**の育成
- ◆学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向う力・人間性等**の涵養

(平成28・29年度改訂の次期学習指導要領より)





教育の課題(文部科学省)

- ◆ 教科等を横断する汎用的なスキル・コンピテンシー等に関わるもの
 - 問題解決、論理的思考、コミュニケーション、意欲など
 - メタ認知(自己調整や内省、批判的思考等をかのようにするもの)
- ◆ 教科等の本質に関わるもの(教科等ならではの見方・考え方など)
- ◆ 教科等に固有の知識や個別スキルに関するもの

(平成26年3月31日発表「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理—」より)



教育の課題(安城学園)

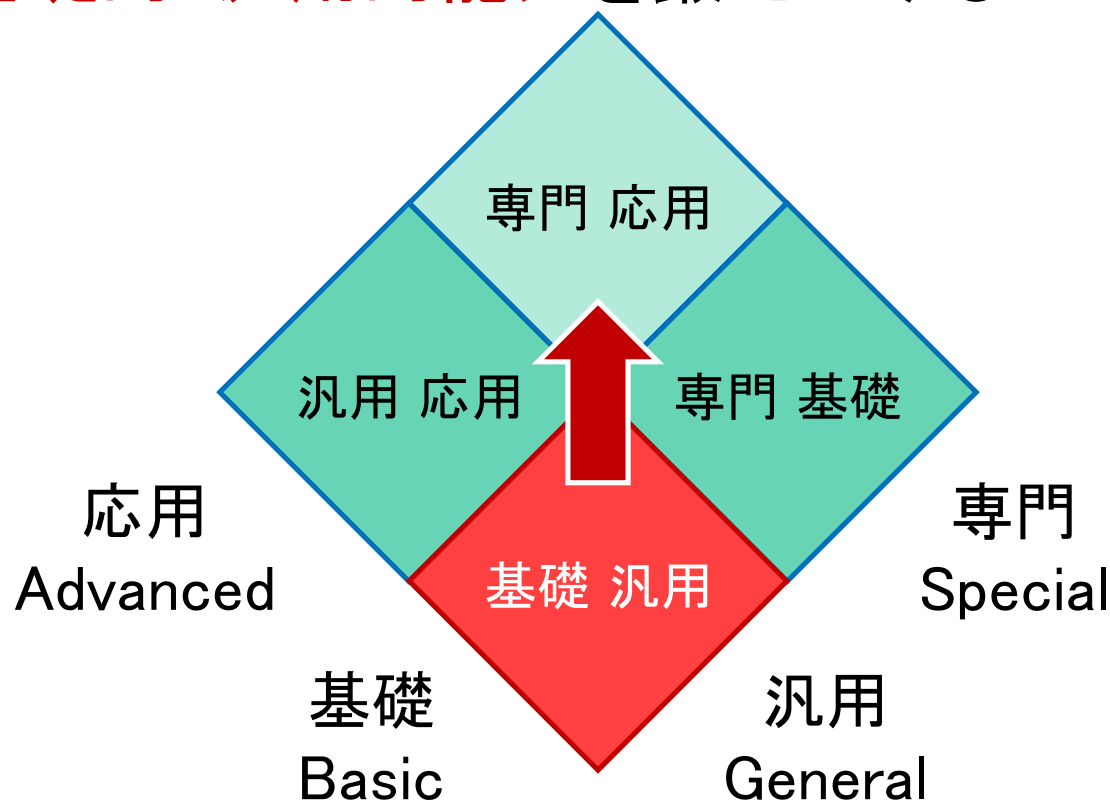
- ◆ 社会の変化に**適応できる能力**の育成と
社会に変化を**誘起できる能力**の育成
- ◆ **教科型能力**の育成と**教科横断型能力**の育成
- ◆ ペーパーテストで**計れる能力**の育成と
ペーパーテストでは**計りがたい能力**の育成
- ◆ **認知的能力**の育成と**非認知的能力**の育成
- ◆ 高度情報社会において
理性的に情報を操作・処理できる能力の育成
- ◆ 剥落しない**耐用年数の長い基礎学力**の育成





教育の課題(安城学園版) 要約

- ◆ 汎用的能力の基礎の上に専門的能力を育成すること
- ◆ 特に基礎的・汎用的能力を鍛え上げること





持続可能性の基盤





持続可能性の基盤は

◆ 付加価値を継続的に創出できる

⇒ 持続可能

◆ 付加価値を継続的に創出できない

⇒ 持続不可能





付加価値とは

【材料費】300円

【諸経費】300円

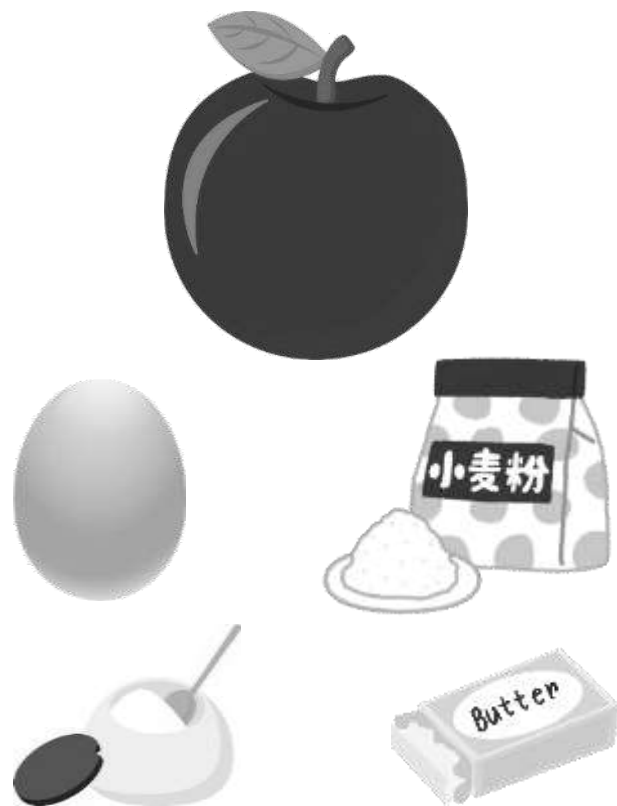




付加価値とは

【材料費】300円

【諸経費】300円



生産



【価格】1,000円



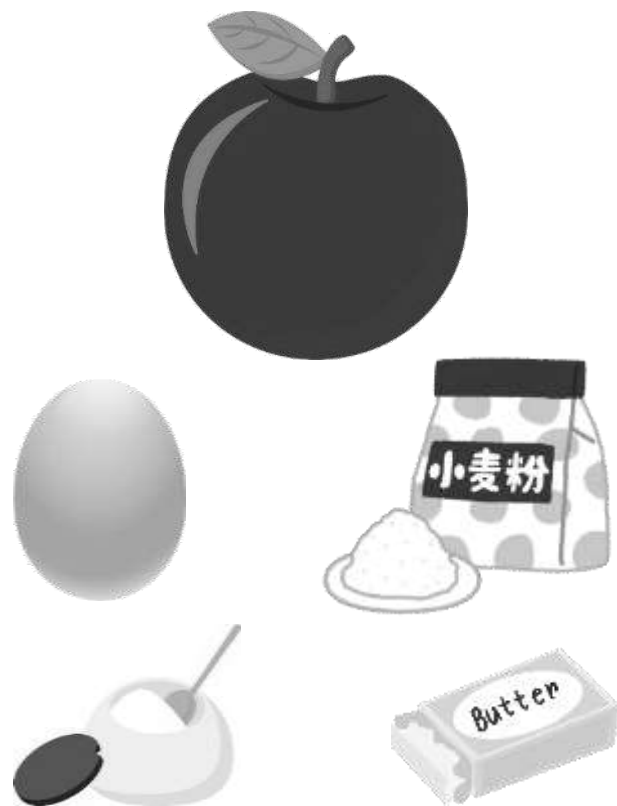


付加価値とは

【材料費】300円

【諸経費】300円

【価格】1,000円



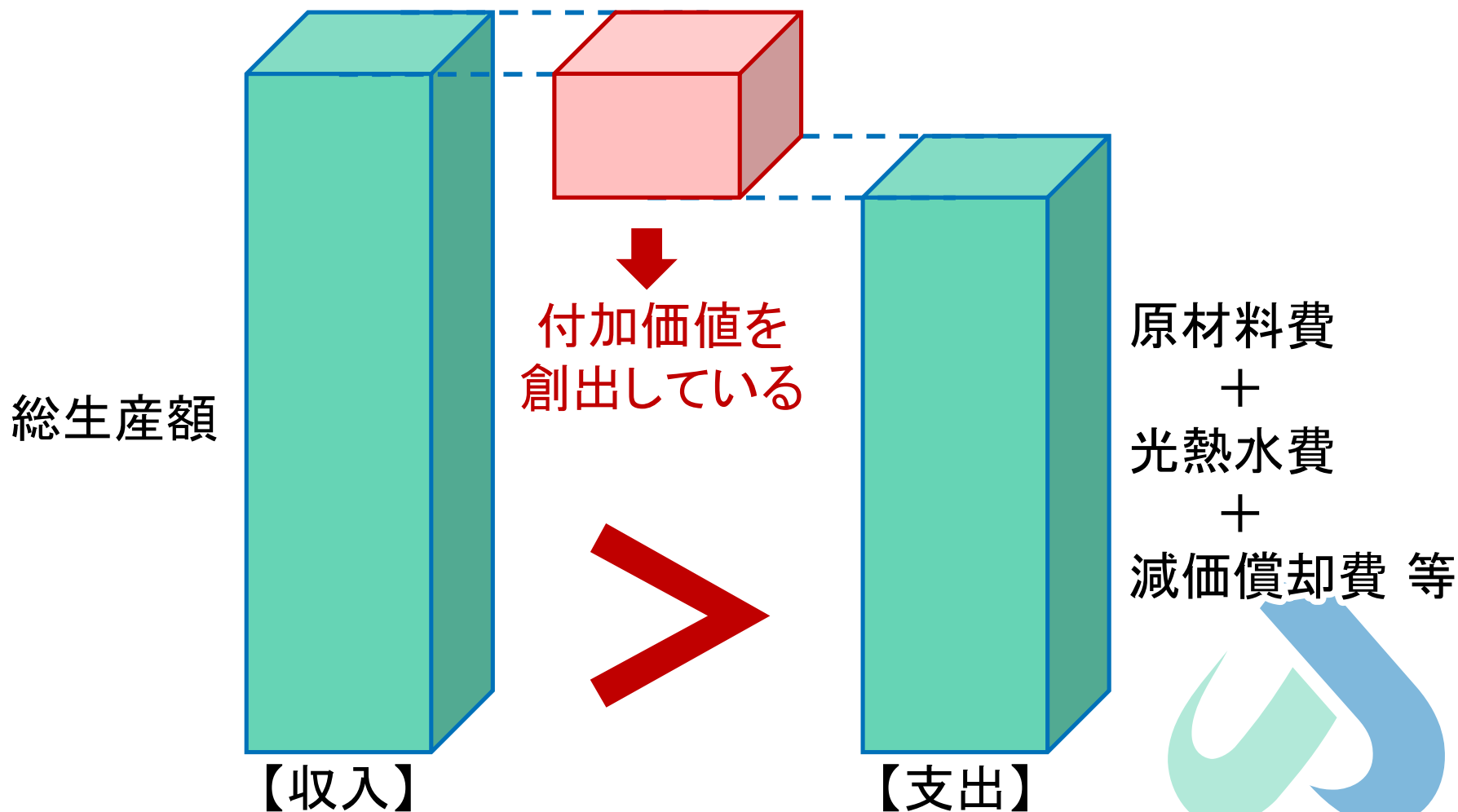
生産



⇒ 400円の付加価値が発生

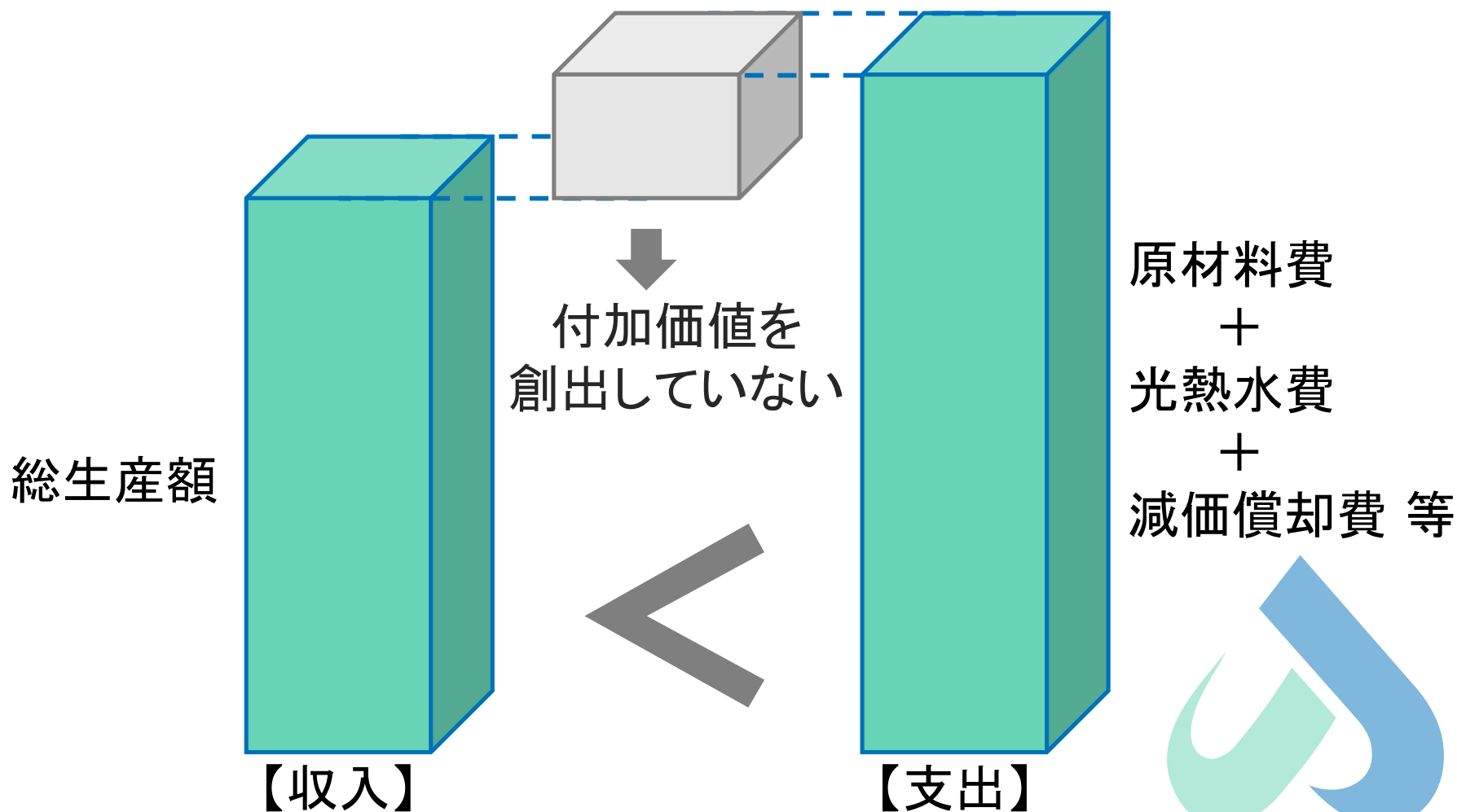


一般企業の場合



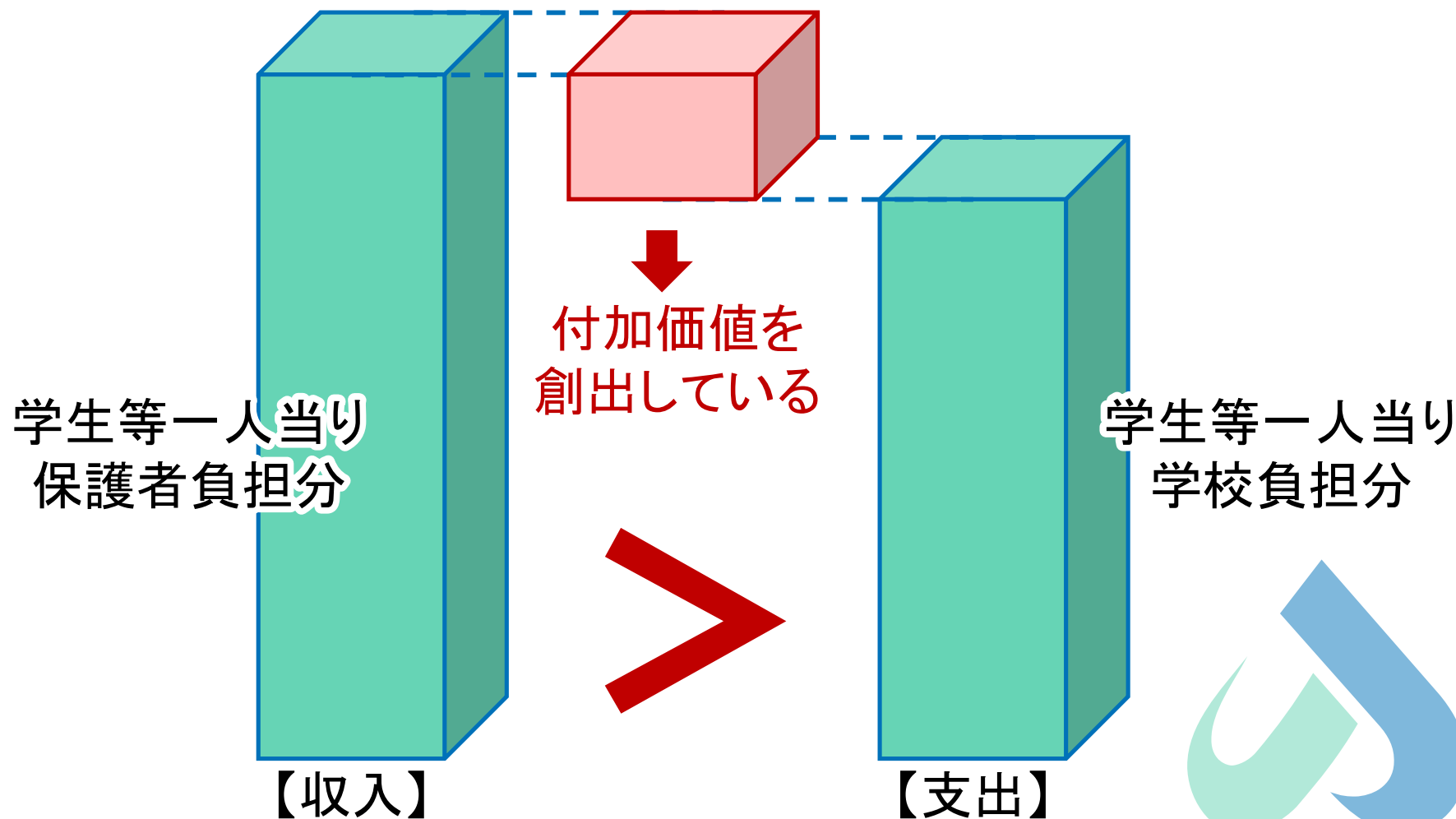


一般企業の場合



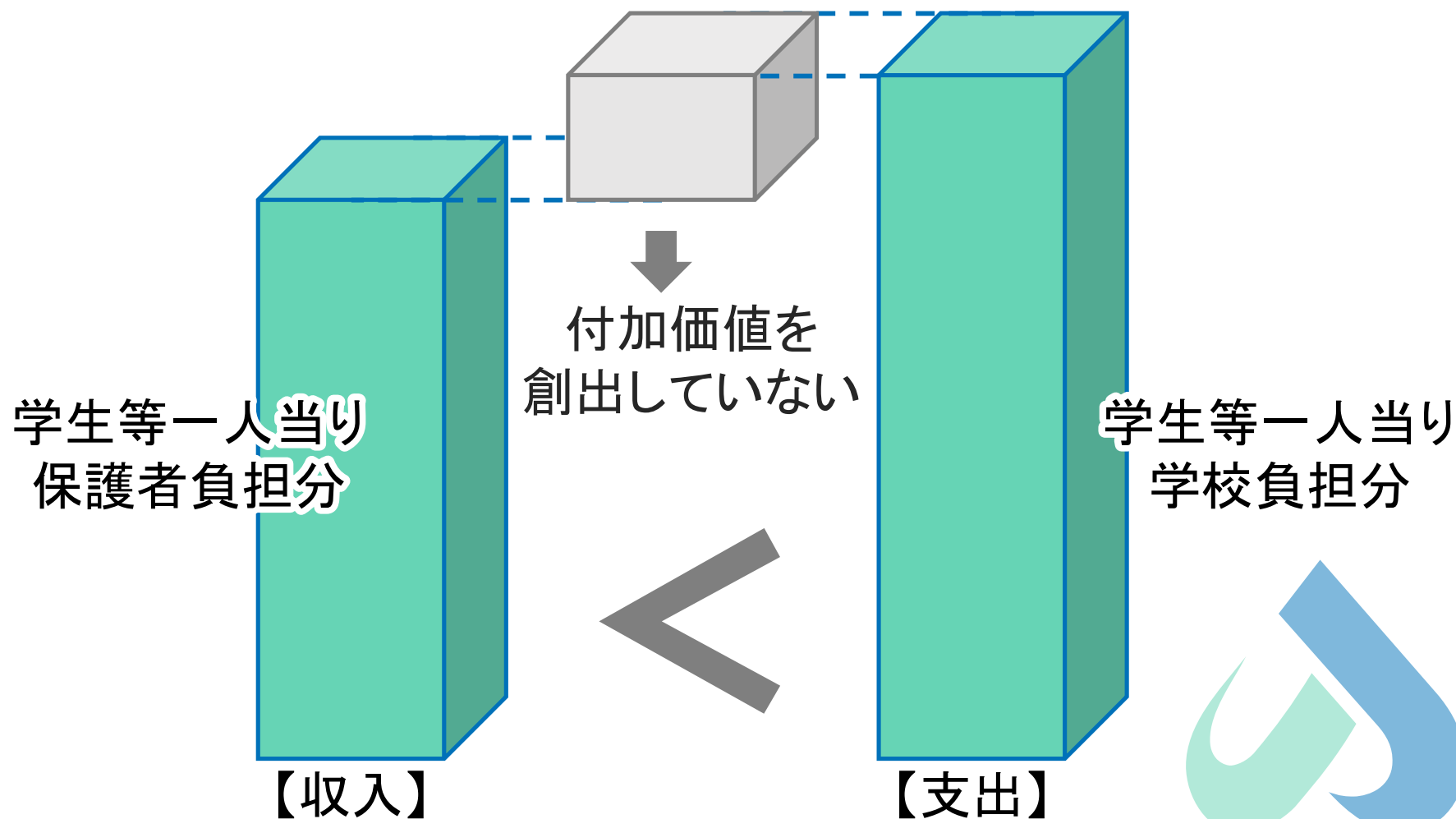


私立学校の場合（保護者に注目）





私立学校の場合（保護者に注目）





教育の質で勝負する学校





教育の質で勝負できる学校

◆ 文部科学省が考える教育の質



◆ 安城学園が考える教育の質





教育の質(文部科学省版)

文部科学省が考える教育の質に関する客観的指標(大学・短大版)

◆ 全学的チェック体制

- ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの点検・評価
- 全学的な教学マネジメント体制の構築
- IR機能の整備
- 教員の評価制度の設定

◆ 学生の学び保証体制

- 学生の学修時間・学修行動の把握
- 学生の学修成果の把握
- 学生による授業評価結果の活用

◆ カリキュラムマネジメント体制

- 履修系統図またはナンバリングの実施
- アセスメントポリシーの整備
- GPA制度の導入、活用
- 履修科目登録単位数の上限設定
- 準備学習に必要な時間等のシラバスへの明記
- シラバス記載内容の第三者チェックの実施

(株式会社進研アド「Between 情報サイト」から)

※注) 高校版 & 幼稚園版の教育の質に関する客観的指標を策定する必要がある



教育の質(文部科学省版)

文部科学省が考える教育の質に関する客観的指標(大学・短大版)

◆ 全学的チェック体制

- ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの点検・評価
- 全学的な教学マネジメント体制の構築

◆ カリキュラムマネジメント体制

- 履修系統図またはナンバリングの実施
- アセスメントポリシーの整備
- GPA制度の導入、活用

第一ステージ(正課の授業)で

勝負できる学校を作るための共通必要条件

◆ 学生の学び保証体制

- 学生の学修時間・学修行動の把握
- 学生の学修成果の把握
- 学生による授業評価結果の活用

- 履修科目登録単位数の上限設定
- 準備学習に必要な時間等のシラバス記載
- シラバス記載内容の第三者チェックの実施

(株式会社進研アド「Between 情報サイト」から)

※注) 高校版 & 幼稚園版の教育の質に関する客観的指標を策定する必要がある



教育における4つのステージ



第一ステージ(正課の授業)



第二ステージ(課外活動)



第三ステージ(地域活動)

第四ステージ(海外交流)



教育における4つのステージ



第一ステージ(正課の授業)

**第一ステージ(正課の授業)で
勝負できる学校を作ることが最重要課題**



教育の質で勝負できる学校

◆ 文部科学省が考える教育の質



◆ 安城学園が考える教育の質

- 寄附行為に基づく教育の質
- 高大・高短連携に基づく教育の質





教育の質(安城学園版)

◆ 私立学校の場合、全ての始まりは**寄附行為**である

● 法人の目的

- ・「建学の理念」と「建学の精神」と「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して、創立者が目指した経済的・政治的・文化的に自立できる社会人を育成することによって、地域と国際社会に貢献することである。

● 法人の教育方針

- ・「智・徳・体・感・行」に基づいた学修(学習)システムと自学・共学システムを開発し、これに基づいて本法人の事業を行う。



従来の学校教育モデル

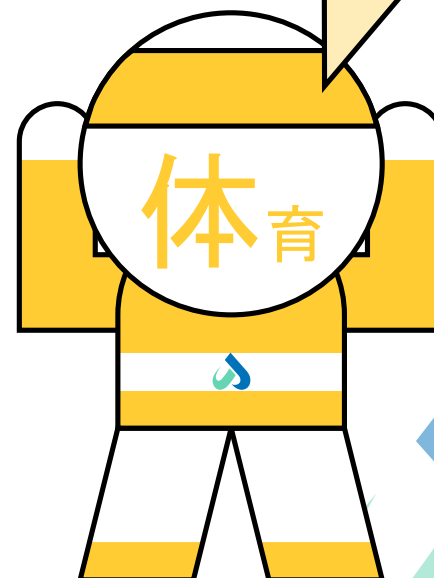
確かな学力



豊かな心

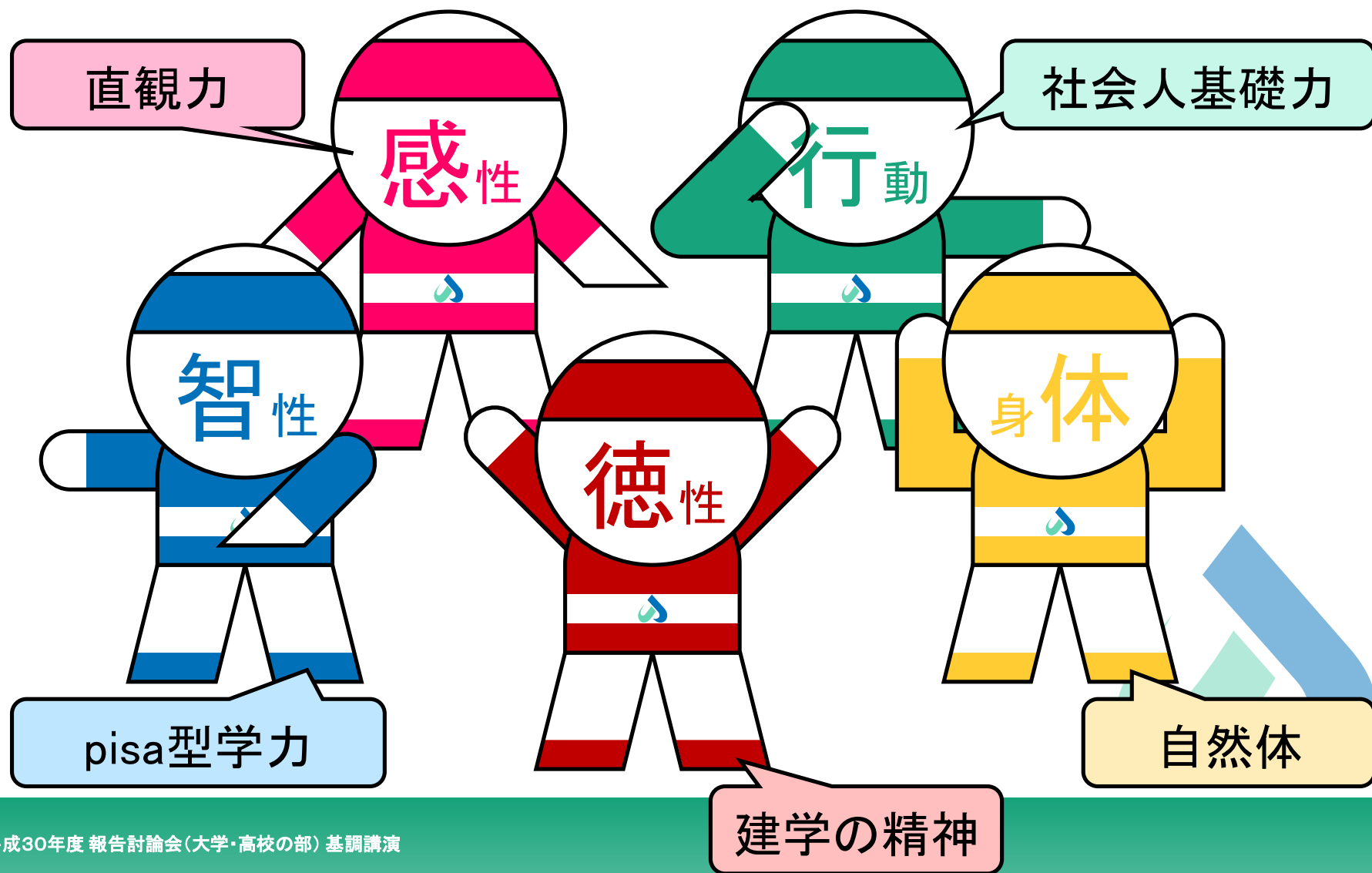


健やかな体





安城学園の教育モデル





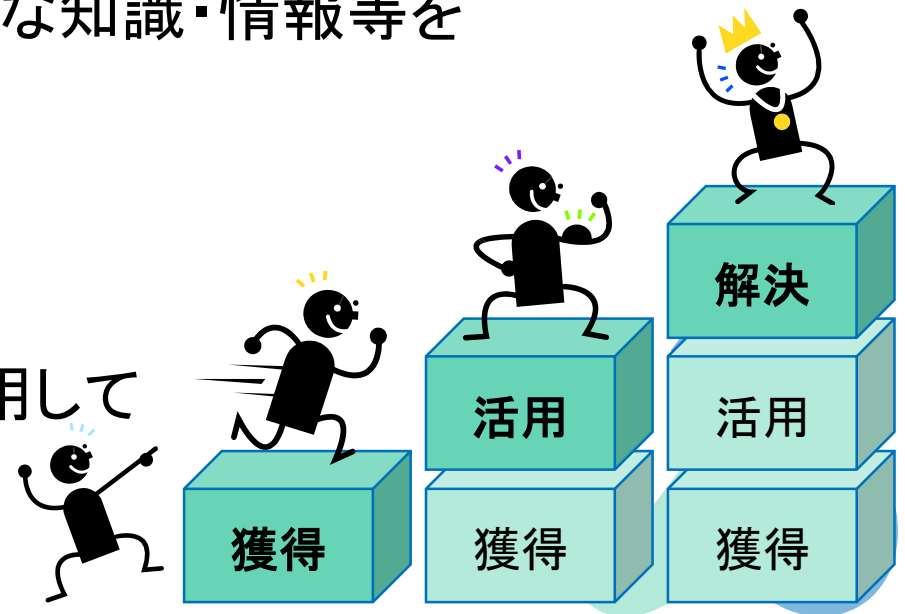
建学の精神(安城学園全体)

- ◆ 生命体構想
- ◆ 個人として自立しつつありとあらゆる生命体と共生することによって
- ◆ 生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた人生を送ること

(寄附行為 第5条第1項より抜粋)



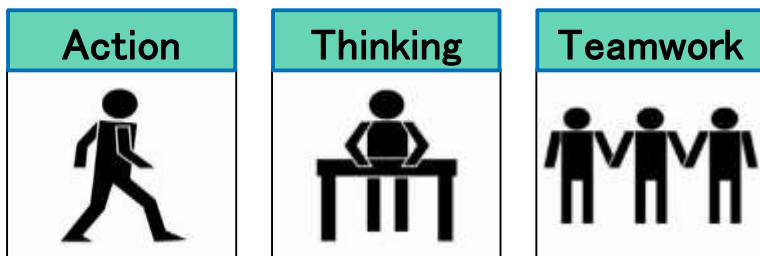
- ◆ 3つの能力を統合した課題解決に必要な学力
- ◆ 「獲得する力」から「活用する力」そして「解決する力」へと成長させることを目指す
 - 課題を解決するために必要な知識・情報等を**獲得する力**
 - 獲得した知識・情報等を**活用する力**
 - 獲得した知識・情報等を活用して課題を**解決する力**





社会人基礎力

◆ 複数の人々がお互いに協力・協働して共通の課題等を解決していくに当たって、一人ひとりのメンバーに要求される3つの能力を統合した行動特性



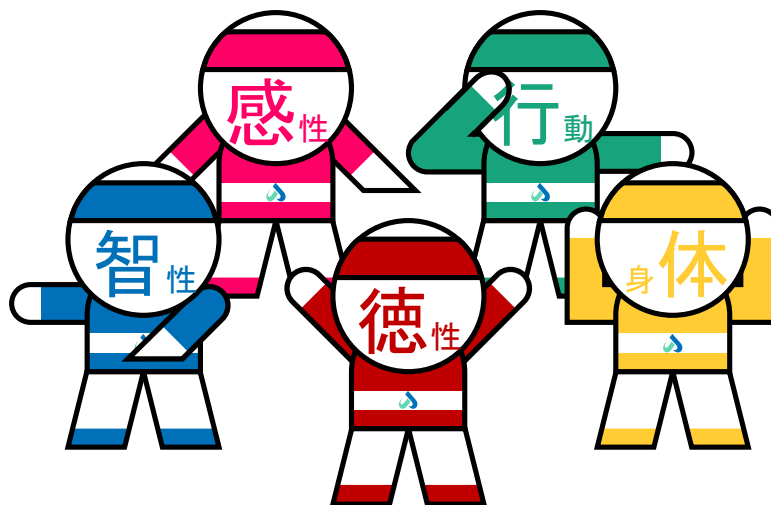
- 前に踏み出す力
- 考え抜く力
- チームで働く力





「賢さ」の再定義

- ◆ pisa型学力(智性)・建学の精神(徳性)・自然体(身体)・直観力(感性)・社会人基礎力(行動)をバランス良く身に付けている
- ◆ 自ら学ぶ力と共に学ぶ力を身に付けている





「賢さ」の再定義

- ◆ pisa型学力(智性)・建学の精神(徳性)・自然体(身体)・直観力(感性)・社会人基礎力(行動)をバランス良く身に付けている
- ◆ 自ら学ぶ力と共に学ぶ力を身に付けている

「賢さ」を再定義し
本学園独自の「賢さ」をブランド化することによって
教育の質で勝負できる学校を作る



教育の質で勝負できる学校

◆ 文部科学省が考える教育の質



◆ 安城学園が考える教育の質

- 寄附行為に基づく教育の質
- 高大・高短教育連携に基づく教育の質





高大・高短募集連携 今までの実態

◆ 安城学園高校から系列校への入学者

	H26	H27	H28	H29	H30
家政学専攻	1	4	2	1	6
管理栄養士専攻	6	6	4	4	3
こどもの生活専攻	15	14	14	17	6
家政学部 合計	22	24	20	22	15

	H26	H27	H28	H29	H30
生活デザイン総合学科	19	23	31	12	12
食物栄養学科	8	7	2	4	5
幼児教育学科	25	44	23	33	43
短期大学 合計	52	74	56	49	60

◆ 岡崎城西高校から系列校への入学者

	H26	H27	H28	H29	H30
家政学専攻	3	0	1	0	0
管理栄養士専攻	3	2	2	0	4
こどもの生活専攻	0	3	0	0	1
家政学部 合計	6	5	3	0	5

	H26	H27	H28	H29	H30
生活デザイン総合学科	2	2	2	1	0
食物栄養学科	0	0	1	2	0
幼児教育学科	5	3	2	3	0
短期大学 合計	7	5	5	6	0



当面の学校規模

平成28年度3月の理事会で決定(パターン8を採用)

◆ 学生等在籍数目標

- 大学 760名
- 短大 640名
- 高校 3,000名
- 幼稚園 800名

◆ 専任教職員

- 大学教員 32名
- 短大教員 27名
- 高校教員 138名
- 幼稚園教員 33名
- 事務職員等 82名

付加価値を創出する学校規模に



高大・高短募集連携 今後の目標

在籍目標760名を目指すために

◆ 安城学園高校から

- 家政学専攻 …… 10名
- 管理栄養士専攻 …… 10名
- こどもの生活専攻 20名

◆ 岡崎城西高校から

- 家政学専攻 …… 5名
- 管理栄養士専攻 …… 5名
- こどもの生活専攻 10名

◆ 学園外の高校から 130名

在籍目標640名を目指すために

◆ 安城学園高校から

- 生活デザイン総合学科 30名
- 食物栄養学科 …… 15名
- 幼児教育学科 …… 35名

◆ 岡崎城西高校から

- 生活デザイン総合学科 7名
- 食物栄養学科 …… 3名
- 幼児教育学科 …… 10名

◆ 学園外の高校から 220名



高大・高大教育連携の推進

- ◆「智・徳・体・感・行」に基づいた自学・共学システム
(教育システム「学びの泉」(仮称))による
高大・高短**教育連携を推進**することによって
高大・高短**募集連携を推進**する

高校1年

高校2年

高校3年

大学1年

大学2年

大学3年

大学4年

高校1年

高校2年

高校3年

短大1年

短大2年





高大・高大教育連携の推進

- ◆「智・徳・体・感・行」に基づいた自学・共学システム
(教育システム「学びの泉」(仮称))による
高大・高短教育連携を推進することによって
高大・高短募集連携を推進する

3+4エデュケーション

高校1年

高校2年

高校3年

大学1年

大学2年

大学3年

大学4年

3+2エデュケーション

高校1年

高校2年

高校3年

短大1年

短大2年

の再構築が課題



安城学園が求める教職員像





今後 安城学園が求める教職員像

- ◆ 社会の**変化に適応**するために**3つの挑戦※**ができる
- ◆ 社会に**変化を誘起**するために**3つの挑戦※**ができる
- ◆ **自己点検・自己評価**能力を高めるために**3つの挑戦※**ができる
- ◆ **安城学園教職員憲章に基づいて行動**するために**3つの挑戦※**ができる
- ◆ 教育システム「**学びの泉**」(仮称)の**開発・実践**に向けて**3つの挑戦※**ができる

※) **3つの挑戦**…**苦手**への挑戦、**上達**への挑戦、**未知**への挑戦



当面の課題

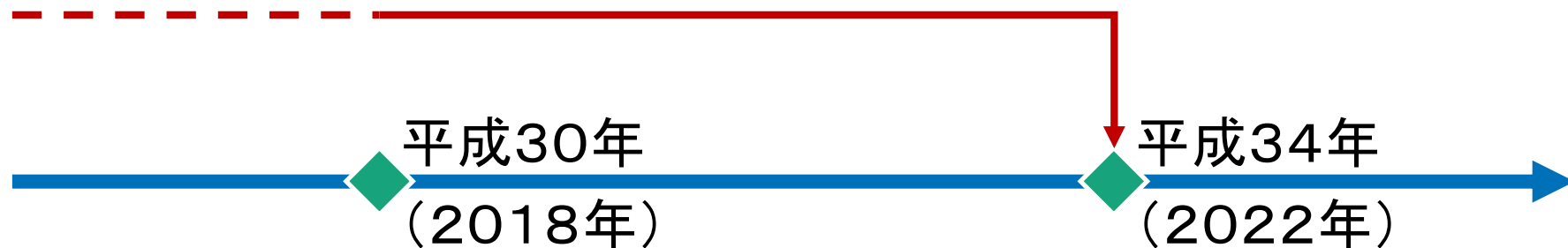




スケジュール

◆ 第1期(遅くとも～平成33年度)

- 試行的な開発・実践
- 準備期間、基盤形成期





スケジュール

◆ 第1期(遅くとも～平成33年度)

- 試行的な開発・実践
- 準備期間、基盤形成期



◆ 第2期(遅くとも平成34年度～)

- 本格的な開発・実践



設置校の当面の課題

教育の質に関する客観的指標(大学・短大版)に対する取り組み

◆ 全学的チェック体制

- ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの点検・評価
- 全学的な教学マネジメント体制の構築
- IR機能の整備
- 教員の評価制度の設定

◆ 学生の学び保証体制

- 学生の学修時間・学修行動の把握
- 学生の学修成果の把握
- 学生による授業評価結果の活用

◆ カリキュラムマネジメント体制

- 履修系統図またはナンバリングの実施
- アセスメントポリシーの整備
- GPA制度の導入、活用
- 履修科目登録単位数の上限設定
- 準備学習に必要な時間等のシラバスへの明記
- シラバス記載内容の第三者チェックの実施

※注) 高校・幼稚園も教育の質に関する客観的指標を策定し、取り組む



設置校の当面の課題

◆ 7つの教育システム「学びの泉」(仮称)に対する取り組み

- 愛知学泉大学版 教育システム「学びの泉」※
- 愛知学泉短期大学版 教育システム「学びの泉」※
- 安城学園高等学校版 教育システム「学びの泉」※
- 岡崎城西高等学校版 教育システム「学びの泉」※
- 愛知学泉短期大学附属幼稚園版 教育システム「学びの泉」※
- 愛知学泉大学附属幼稚園版 教育システム「学びの泉」※
- 愛知学泉大学附属桜井幼稚園版 教育システム「学びの泉」※

の基盤の構築

※教育システム「学びの泉」(仮称)…「智性・徳性・身体・感性・行動」に基づいた自学・共学システム



教職員の当面の課題

◆ 事務職員の場合

- 教職協働に向けて3つの挑戦を行うこと
- マネジメント能力の向上に向けて3つの挑戦を行うこと
- どの設置校、どの部署でも能力を発揮できるように3つの挑戦を行うこと
- 文系・理系の枠を超えた総合力を高めるために3つの挑戦を行うこと





教職員の当面の課題

◆ 教育職員の場合

- シラバス及び教材の組織的開発に向けて3つの挑戦を行うこと
- 教育システム「学びの泉」(仮称)を開発するための教育に関する研究活動の推進に向けて3つの挑戦を行うこと
- ティーチャー ⇒ ティーチャー + ファシリテーター + …
教員の役割の変化に適応するために3つの挑戦を行うこと
- 担当する教科・科目の専門性を高めるために3つの挑戦を行うこと
- 文系・理系の枠を超えた総合力を高めるために3つの挑戦を行うこと



働き方改革





働き方改革

◆ 私たちの共通の目標を実現するために必要な働き方改革

- 勤務時間の適正管理
- 業務内容・業務量のスクラップ&ビルト
- 事務の合理化の推進等業務方法の改善
- 専任教職員の業務・教育職員の業務等々業務の役割分担の適正化
- 教職員のスキルアップ
- 勤務時間に関する意識改革





さいごに





教育システム「学びの泉」を完成するために

教職員各位の潜在能力が
私たちの共通目標である本学園の仕事を通して
可能性の限界まで開発されますことを
心からご祈念申し上げます





ご清聴

ありがとうございました

